

●特別賞〔論文概要紹介〕

「ことばの教育」によって 活用力を高める 授業の創造

みやもとのぶひこ
宮本直彦

広島県世羅町立世羅中学校

【実践の概要】

これからの「知識基盤社会」の中で「生き抜く力」とりわけ活用力を子どもたちにつけるために、本校では平成17年・18年度広島県「ことばの教育」パイロット校(タイプⅡ)、平成19・20年度広島県「ことばの教育」ステップ・アップ事業研究地域拠点校の指定を受け、すべての教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動(以下、全教科等という)に「ことばの教育」を取り入れることで、思考力や論理的な表現力の育成を目指して取り組みを続けている。

本校の研究は、思考力を高めるためには問題解決的な学習が基本であると考え、授業において「課題設定」「個人思考」「集団思考」「まとめ」の4段階を設定し、「言語技術」と「書く活動」を導入した「世羅中学校授業モデル」を作成し、全教科等で実践することで、生徒の思考力や表現力の高まりを目指している。

4年間の研究の結果、「言語技術」と「書く活動」を取り入れた「世羅中学校授業モデル」は、思考力や表現力の育成に有効であることがわかり、研究の成果は「指導事例集Ⅰ～Ⅲ」として蓄積している。

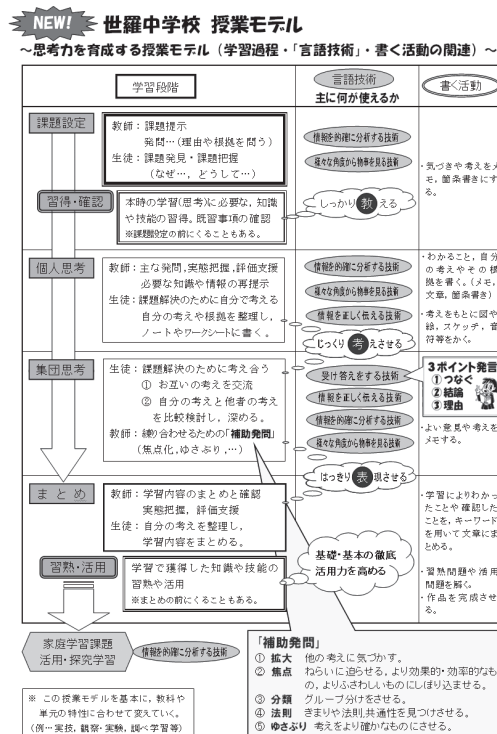
【論文内容の紹介】

1. 研究主題

「活用力を高める授業の創造」～「ことばの教育」によって思考力や表現力を高める～

2. 研究の方向

PDCAのマネジメントサイクルを活用した教育研究を行っている。1年ごとに「研究仮説」を立て「研究の内容」「検証の指標」「達成目標」を細かく設定し、実践を行った後、評価を行い、「研究主題」を含めて検証し、次年度につなげている。特に進化しているのは、「世羅中学校授業モデル」である。



3. 成果と課題及び今後の改善策

○ 「世羅中学校授業モデル」を基本に、全教科等で実践を行った結果、思考力や表現力の高まりが見られた。書いたり話したりすることに自信をもつ生徒が徐々に増えてきている。

- 「世羅中学校授業モデル」の実践で、集団思考場面における主体的な練り合いを多くつくる。さらに「3ポイント発言」を定着させる。
- 思考力や表現力を評価する問題の精度を高める。
- 「ことばの教育」の小中連携による積み上げを行っていく。

●奨励賞【論文概要紹介】

自分の考える東海州を提案しよう

愛知県扶桑町立扶桑中学校 おだ たけし
織田 剛

【実践の内容】

生徒と社会科の学習について話をすると、地理的分野の学習の中で、自分とのかかわりを実感することができないでいる生徒が多いことに気づいた。そこで、「自分の考える東海州を提案しよう。」という発展的な学習を取り入れることにより、地理的分野の学習を身近なものとしてとらえ、学習への意欲を高めたいと考えた。

【論文内容の紹介】

1. 研究の目的

愛知県の地域的特色をとらえる学習の後、発展的な学習課題として、道州制を取り上げる。具体的には近隣諸県の地理的特徴や産業の特色をとらえた後、愛知県との組み合わせを考える。愛知県のもつ良いところをさらに伸ばせるような組み合わせ、足りない部分を補うことができる組み合わせについて、判断をする機会を意図的に

設定し価値判断力を育成する。

自分の考えを構築し、自分の考えをもった上で、現代社会で起こる諸事象や社会の動きをとらえることにより、社会の形成者としての自覚をもたせたい。

2. 指導の実際

道州制を取り上げ、「自分の考える東海州は」をテーマに学習を進めることとした。ねらいは、「①愛知県の調査で身につけた調査方法をもとに、近隣諸県の調査を進めることで、調査の方法を確実に自分のものとするができる。②近隣諸県と愛知県を様々な面から比較することで愛知県についての理解をより深いものにすることができる。」の2点である。

道州制で愛知県と組み合わせる県をどこの県にするかを考えるため、岐阜県、長野県、静岡県、三重県、滋賀県の5県の調査を行った。調査活動には、学習課題に対する認識の明確化、生徒間の意見交換の活発化や、調査と話合いの班を替えることにより、学習に対する意欲や責任感の向上を意図し、ジグソー学習を取り入れた。

愛知県のもつ良いところをさらに伸ばせるような組み合わせや、足りない部分を補うことができる組み合わせにするためには、何県と組み合わせるといちばんよいかという点から資料を基にして、話合いを進めることができた。

学習前、調査後、話合い後を県別に比べると、話合いを通して各県の特徴が見直され、各県の選択割合が増加し、多様な組み合わせが提案された。

3. 成果と課題

学習課題の解決のため、愛知県や自分の調査する県と他県とを比較しながら判断することができた。また、統計資料を基に必要な情報を取捨選択する姿や、自分の判断基準をもって話し合い、多面的・多角的なとらえ方ができた。以上のことから価値判断力の基礎を身につけることができたのとらえている。

道州制を学習の題材としたが、政治的な要因を取り上げないようにしたため、全体像をつかむことができなかった。

現代社会で起こる諸事象の教材化の工夫、発展的な学習を取り入れたことで見られる生徒の変容をどのように測るとよいかということについて、今後も継続的に研究を進めたい。

●奨励賞〔論文概要紹介〕

「論理的な思考力・表現力」を高める カリキュラム開発

—ことば科の取り組み—

広島県立広島中・高等学校 やはらほうしょう
矢原豊祥

【実践の内容】

本校は、広島県内では初めての県立の併設型中高一貫教育校として平成16年4月1日に開校した。中高の6年間で「論理的な思考力・表現力」を身につけさせていくための言語カリキュラムの開発の取り組みである。

【論文内容の紹介】

1. 論文の概要

中学校段階においては、「ことば」の授業を設定し、すべての教科の核として位置づけている。そこでは、「論理的な思考力・表現力」を身につけさせるために全生徒に履修させている。稿者は「ことば科」の授業を担当する国語科の教員として、日本語による話型のトレーニングを繰り返し行った。また、数学・社会・理科等の教員とTTを行うことで、合科的な学習活動を展開し、応用的な問題解決型学習を行うことを通

して、「論理的な思考力・表現力」を身につけさせることを目指した。その成果は、広島中学校の生徒の学力の向上として現れている。例えば、2007年度に文部科学省が実施した「全国学力・学習状況調査」では、PISA型「読解力」に関連の深い「主として『活用』に関する問題」であるB問題でたいへん優れた結果を上げている。その他にも、作文コンクール等で、最優秀賞・優秀賞等を毎年受賞している。また、広島高等学校における指導でも、総合的な学習の時間での発表や討論、文献やデータを用いた分析、小論文や卒業論文を作成する活動においても、高い水準の学習効果を上げている。

2. 開発の内容と授業実践におけるポイント

グローバル化時代に必要な「論理的な思考力・表現力」を身につけさせていくため、中高一貫教育校の中学校段階に教科「ことば科」を新設した場合の教育課程、指導方法及び評価方法並びに高等学校教育課程との接続の在り方についての研究開発を実施している。その中で、あらゆるタイプのテキスト（グラフ、図表、写真、絵、地図等）の多面的な読解トレーニングやディベート、パネルディスカッション等の討論活動に取り組んでいる。また、「ことば科」は高等学校の「総合的な学習の時間」に接続し、第1学年「探究基礎」、第2学年「課題別研究」、第3学年「卒業研究」と言語運用活動を重視した探究的な学習へと発展する。

本校の中学校「ことば科」は、国語科の教員が主となって進めているが、「論理的な思考力・表現力」を、すべての教科の核として考えるという観点からも、国語科の教員と他教科の教員がTTを組んで指導に当たることとする。そこでの国語科の教員の役割は、主に取り上げる素材を活用しての話し合いや討論の指導、そしてそれを表現に結びつけていく指導である。他教科の教員の役割は、主に素材の選定や発想の転換、思考のポイントなどを示していく指導であり、そうした視点からの発問や説明を行う。授業実践に

おける指導の在り方として留意したのは、次の3点である。

- ① 話し方や書き方等の型のトレーニングを各学期の初めに集中して行い、「筋道立てて考えたり伝えたりする力」の基礎をインプットする。
- ② 4人編成のグループ学習形態をとる等、授業にコミュニケーションの場を常に設定し、他者意識を高めることで、「わかりやすく伝える力」を高める。
- ③ グループやペアで互いのレポート等の作品を推敲・相互批正させることで文章表現を練り上げる力を高める。